



JAPIC NEWS

JAPIC 一般財団法人 日本医薬情報センター
Japan Pharmaceutical Information Center

Contents

巻頭言

- 「ブレイクスルー・サイエンスに基づく医薬品によって健康な社会の実現に貢献する」
アステラス・アムジェン・バイオフーマ株式会社 代表取締役社長 高橋 栄一…… 2

インフォメーション

- 3月発刊!『JAPIC医療用医薬品集 普及新版2016』…………… 4
3月発刊!『日本の医薬品 構造式集2016』…………… 4
『JAPIC Pharma Report-海外医薬情報』冊子体の発刊終了について…………… 5

コラム

- 最近の話題「薬剤師メディカルラーニングPERT (Pharmacist emergency response training) プロバイダーコースが開催されています」
特定非営利活動法人 薬剤師緊急対応研修機構 理事長 山口 勉…………… 6
くすりの散歩道 No.94 「生活習慣にも科学的根拠を…」
(一財)日本医薬情報センター 医薬文献情報担当 杉山 むつみ…………… 8

トピックス

- iyakuSearch講習について:広島国際大学薬学部で行いました…………… 9
JAPICサービスの紹介
院内採用医薬品集作成システムJAPIC PIA (ジャピック ピア)…………… 10
JAPIC Daily Mail (JDM) サービス…………… 12
JAPIC Daily Mail Extra (JDMエクストラ) サービス…………… 13
JAPIC Daily Mail Plus (JDM Plus) サービス…………… 13

- 外国政府等の医薬品・医療機器等の安全性に関する規制措置情報より-(抜粋)…………… 14

- 図書館だよりNo.309 情報提供一覧…………… 15

3

2016 | No.383

ブレイクスルー・サイエンスに基づく 医薬品によって健康な社会の実現に 貢献する

アステラス・アムジェン・バイオフーマ株式会社
代表取締役社長 高橋 栄一 (Takahashi Eiichi)



バイオ医薬品は、病気と闘う選択肢を大幅に増やすことができる

20世紀はイノベーションの世紀といわれています。飛行機、エレクトロニクス、コンピュータやインターネットなど、歴史を振り返ると革新的進歩であった事柄が日常に定着し、私たちの生活を大きく変えました。

製薬・医療の分野も同様で、生物学 (Biology: バイオロジー) に基づく知見が急速に集積され、疾患の本体が明確になってきました。そこから治療への新たなニーズが噴出し、さまざまな医薬品の開発は多くの患者さんの治療に貢献してきました。

バイオ医薬品の治療への利用は、1982年、遺伝子組換えによって大腸菌から作られたヒト・インスリンに始まり、20世紀終わりにはヒト型抗体を医薬品として臨床現場で使うまでになりました。そして膠原病やがんといった、それまで低分子医薬品では十分な効果が得られなかった疾患にも、治療の手が届く希望がでてきたのです。21世紀のバイオ医薬品の発展は、新たな治療手段の日進月歩を実感させるものとなっています。

バイオ医薬品の発展がヒトの健康に役立つことは、今日広く認識され、世界中で3億5千万人を超える患者さんがバイオ医薬品を使用し、より健康的な生活を送ることができるようになってきました。私はこの21世紀のはじめは、バイオ医薬品、なかでも抗体薬がその可能性を広げ、より高い評価を得て、日常臨床に定着する時期だと考えています。バイオロジーと分子テクノロジーをさらに深く理解し応用することで、バイオ医薬品という新しい手立てを得て、病気と闘う選択肢を大幅に増やすことができるようになったのです。

アンメット・メディカル・ニーズに応えるために

こうした製薬・医療の現況のなかで、アステラス・アムジェン・バイオフーマ (以下、AABP) は、わが国の患者さんのアンメット・メディカル・ニーズに応えて、バイオ医薬品のイノベーションの成果をたゆまず提供し続けることを意図して、2013年10月に事業を開始しました。AABPは、わが国における医療ニーズへの知識が深く、マーケティングや開発、薬事に関する経験が豊富なアステラス製薬と、革新的な開発力と高品質のバイオ医薬品を世界規模で生産する能力を有するアムジェンの長所を融合させようと設立された合弁会社です。

アステラス製薬はよく知られている通り、2005年に藤沢薬品と山之内製薬との合併で誕生した、わが国の医薬品業界で売上第2位の製薬企業であり、日本発のグローバルプレーヤーとして世界市場に展開を続けています。

アムジェン (Amgen, 本社: 米国カリフォルニア州) の社名の由来は、Applied Molecular Genetics とされており、バイオ医薬品で治療に貢献することを会社の文化としています。1980年に設立され、今日、世界最大の独立系バイオテクノロジー研究開発企業として発展し、現在世界75か国で革新的な治療薬を提供しています。

わが国におけるアムジェンの活動は30余年におよびます。それは1984年のキリンとの合弁会社設立に始まり、1992年には日本法人を設立し、その後、アムジェン・デベロップメント株式会社として主に日本における臨床開発や提携業務を行ってきました。そのため、アムジェンという企業名が表に出てくる機会はありませんでしたが、現在、日本で使われているバイオ医薬品の中にもアムジェンが開発したものが複数あります。

アムジェンが開発するバイオ医薬品は、その革新性と高品質について高く評価されています。その根幹には、

“Biology First”をスローガンとして、アムジェンが大切にする「生物学の深い理解」に基づく製品開発と、非常に複雑でデリケート、かつ特別のノウハウを要するバイオ医薬品製造過程の徹底的な品質管理があります。AABPはそうした特別な基盤をしっかり受け継いでいます。

日本で2016年1月に製造販売承認を取得した高コレステロール血症治療薬エボロクマブは、AABPの記念すべき承認第一号製品となりました。このほか、骨粗鬆症の患者さんを対象とした抗スクレロstin抗体 romosozumab、急性リンパ性白血病の患者さんを対象とした抗CD19BiTE®抗体 blinatumomabといった、革新的バイオ医薬品をアステラス製薬と共同開発しています。さらにそれ以外のアムジェンのパイプラインを日本に導入するための臨床開発を推進しています。

患者さんに最も価値のある薬剤を提供することを使命に

エボロクマブは、ヒト型抗体による抗PCSK9（プロタンブリン/ケキシン9型）作用の高コレステロール血症治療薬です。

PCSK9は、LDL受容体と結合してLDL代謝に関与する血漿タンパクです。通常、血中のLDLは肝細胞表面のLDL受容体に結合して、細胞内に取り込まれます。そこでLDLは分解されますが、LDL受容体のリサイクリングによってLDL受容体は肝細胞表面に戻り、再びその機能を発揮します。しかし、PCSK9が結合したLDL受容体は、肝細胞内でLDLともども分解されてしまい、リサイクリングが阻害されます。そのため肝細胞表面のLDL受容体が減少し、肝臓のLDLクリアランス能は低下するため、血中のLDLコレステロール値が上昇します。

PCSK9遺伝子は2003年に発見され、PCSK9の機能獲得型変異が家族性高コレステロール血症の一部と関連することが示されました。当社の第1号製品となった抗PCSK9抗体エボロクマブは、2009年から現在まで、多くの臨床試験が実施されています。そして2015年に欧州、米国で承認され、その半年後に日本での承認に至ったのです。2003年の発見以降、わずか十年あまりの間に薬として製品化されたことに、科学技術の進展のスピードと、一日も早く患者さんに有効な治療選択を届けようとする、研究者、企業、行政の強い願いを感じずにはられません。

このような治療の選択肢を増やすバイオ医薬品の開発を通して、私たちAABPは、「医療のアンメット・ニーズに対し、患者さんにとって最も価値のある薬剤を一生懸命に開発し、一刻も早く臨床現場に届ける」ことに、全社がワンチームで取り組み、ブレークスルー・サイエンスに挑戦して参ります。

図 バイオテクノロジーの進歩と、アステラス・アムジェン・バイオフार्マ (AABP) の歴史
〔赤字=アムジェン、アステラス製薬、AABPの関連事項〕

1953	ジェームズ・ワトソン博士とフランシス・クリック博士が、DNAの二重らせん構造を報告
1958	アーサー・コーンバーグ博士がin vitroでDNAを作製
1970	DNAを特定部位で切断する制限酵素発見。遺伝子クローニングへの道が開かれる ハー・ゴビンド・コラナ博士が初めて完全な遺伝子を合成
1973	スタンレー・コーエン博士とハーバート・ボイヤー博士が、細菌遺伝子を用いて、組み換えDNAを細胞で複製させる「組換えDNA実験」に成功
1978	ハーバート・ボイヤー博士が、合成ヒトインスリン遺伝子を大腸菌に挿入して、ヒト・インスリンの産生に成功
1980	アムジェン設立
1983	ケイリー・バンクス・マリス博士が、DNA配列を増幅させるポリメラーゼ連鎖反応 (PCR) 法を開発 エリスロポエチン遺伝子のクローニングに成功
1985	顆粒球コロニー刺激因子 (G-CSF) 遺伝子のクローニングに成功
1994	メアリー・クレア・キング博士が、世界で初めて、乳がん遺伝子を発見 (以降、多数のヒト遺伝子の機能が同定される)
1999	ヒト染色体の遺伝暗号を完全に解読
2003	PCSK9発見
2005	藤沢薬品と山之内製薬が合併し、アステラス製薬発足
2013	アステラス・アムジェン・バイオフार्マ発足
2016	高コレステロール血症治療薬エボロクマブ、抗PCSK9抗体、日本で承認 (1月)

図 アステラス・アムジェン・バイオフार्マの主力開発品 (2016年1月現在)

一般名 (製品名)	適応症	作用機序	開発段階	
			海外	日本
エボロクマブ	高コレステロール血症 家族性高コレステロール血症	抗PCSK9抗体	2015年発売	2016年1月承認
romosozumab	骨粗鬆症	抗スクレロstin抗体	第Ⅲ相試験	第Ⅲ相試験
blinatumomab	急性リンパ性白血病	抗CD19BiTE®抗体	2014年発売	第Ⅰ相試験

Information

3月発刊! 『JAPIC医療用医薬品集 普及新版2016』

毎年大好評の『JAPIC医療用医薬品集 普及新版2016』を3月中旬に発刊いたします。

本書はコンパクトなA5判で2016年1月までの添付文書情報を収載しておりますので、毎年8月発刊の医療用医薬品集のハンディ版あるいは追補版としてもご活用頂けます。

《本書の特長》

- ・「JAPIC医療用医薬品集」収載内容から臨床で利用する頻度の高い〔組成、効能・効果、用法・用量、禁忌、警告、使用上の注意（相互作用、副作用、妊産授乳婦投与、高齢者投与、小児投与等）、半減期〕を抽出、要点に絞って編集し、一回り小さいA5判のハンディサイズにまとめました。
- ・2016年1月時点までの約2,200成分、約21,000製品の最新医療用医薬品情報を収録しております。
- ・医療用医薬品集に比べページ数は約半分となり、価格もお求めやすくなっております。

価格：4,800円（+税）。A5判 約1,800ページ（販売：丸善出版株式会社）



3月発刊! 『日本の医薬品 構造式集2016』

『日本の医薬品 構造式集 2016』を3月上旬に発刊いたします。

化学構造式にはきわめて多くの関連情報が含まれており、それらの情報から医薬品の代謝や薬理作用などを類推することができ有益です。最新の構造式を収録した書籍は他に見られないことから貴重な資料となっております。

《本書の特長》

- ・「JAPIC医療用医薬品集2016」収載成分から一部の高分子製剤、低分子製剤などを除く約1,400成分の構造式を収録しております。
- ・各成分には構造式のほか、一般名・化学名・薬効分類・効能効果・CAS Registry number・分子量・分子式を記載しております。
- ・索引は五十音（和文）索引とアルファベット索引の2種類を収録。五十音索引では製品名による検索ができます。

価格：1,800円（+税）。B5判 約200ページ（販売：丸善出版株式会社）



「JAPIC Pharma Report—海外医薬情報」冊子体の発刊終了について

「JAPIC Pharma Report-海外医薬情報」は、海外における医薬品の承認情報、安全性、有効性情報、および海外のニュースダイジェストについて掲載し、広範囲かつ主要な情報を手軽に一覧できる一冊として提供してまいりました。

この度、情報源の1つである共同通信デジタル提供の海外医薬関連外電情報サービスが平成28年3月末をもって終了となることから、内容の見直し、および近年の冊子体提供での需要等の状況を踏まえて検討した結果、冊子体での提供を、平成28年3月号をもって終了することといたしました。

平成28年4月以降は、「JAPIC Pharma Report-海外医薬情報」の“承認情報”および“海外主要医学雑誌からの文献情報”の書誌事項をJAPICホームページで、また、“海外主要医学雑誌からの文献情報”の詳細（抄録、キーワードなど）についてはiyakuSearch、PharmaCrossなどの医薬品情報データベースから提供いたします。

(JAPICホームページ掲載例)

◆“海外主要医学雑誌からの文献情報”の書誌事項

201551654
増殖性糖尿病網膜症に対する汎網膜光凝固と硝子体内 Ranibizumab 投与：無作為化臨床試験
 Writing Committee for the Diabetic Retinopathy Clinical Research Network : Gross J. G. (Carolina Retina Center PA, Columbia/USA), ほか
 JAMA 314 (20) 2137-2146 / (2015. 11. 24)

◆承認情報

承認	有効成分(商品名)	会社名	薬効または適応	国名	情報源
201551655 増殖性糖尿病網膜症に対する Dexamethasone (Eyesol)	betamethasone (Beteflam, Betesil)	Institut Biochimique SA, Cipher	成人の軽度～中等度の対および膝の尋常性乾癬(最大使用期間 30 日)(局所バッチ)	カナダ	(Scrip Intelligence 2015.12.18 No.3782 p.22)
	blinatumomab(Blinicyto)	Amgen Inc.	成人のフィラデルフィア染色体陽性で再発または難治性の	EU	(Scrip Intelligence 2015.12.4 No.3780 p.22)

※掲載例のため多少変更になる場合があります

「JAPIC Pharma Report-海外医薬情報」に付随して会員に提供しております、「JAPIC Pharma Report-海外医薬情報(速報)」のFAXサービスは引き続き提供いたします。海外医薬関連外電情報サービス終了に伴い、平成28年4月以降は“安全性措置情報”は終了とし、“承認情報”は情報源を米FDA News Releaseに変更いたします。

今後とも海外における医薬品情報の充実に努めながら、JAPICホームページやデータベースからの提供等、より多くの皆様にご覧いただけるようにしてまいりますので、本情報をご活用いただきますよう、宜しくお願い申し上げます。

□お問合せ先 (医薬文献情報 海外 JAPIC Pharma Report担当)

最近の話題

薬剤師メディカルラリー・PERT (Pharmacist emergency response training)

プロバイダーコースが開催されています。

特定非営利活動法人 薬剤師緊急対応研修機構
理事長 山口 勉 (Yamaguchi Tsutomu)



開催経緯

薬剤師の知識・技術を学ぶ、または向上させる機会はたくさんあります。学術大会・講演会・勉強会など、沢山ありすぎて選ぶのにも一苦労かもしれません。しかしながら、最近の一部にはあるものの、薬剤師の為のもの、もしくは薬剤師が参加する実習研修やシミュレーション研修の場は非常に少ないと私はずっと感じていました。講演型の研修では聞くだけになってしまい、直後に実践する機会がなく、振り返りを怠ってしまえば、そのまま忘れてしまうこともあるでしょう。実習研修やシミュレーション研修は、実践をその場で模擬形式で行うので、比較的、実体験に近いものです。よって覚えていられる期間が長いと言われています。そして、薬剤師に比べ、他の医療職に向けたシミュレーション講習は比較的頻繁に行なわれてきています。

また、医療の原点である救命の基本中の基本であり、一般市民でも行える心肺蘇生術やAEDの使用を、自信を持ってできる薬剤師はどの程度いるのでしょうか。私はいくつかの研修のインストラクターをしていますが、同業者である薬剤師に出会うことは限りなく少ないというのが実感です。

加えて、JPTEC (Japan Prehospital Trauma Evaluation and Care) という救急外傷の病院前評価と処置を学ぶシミュレーション講習があります。こちらは「病院前」向けであるにもかかわらず、薬剤師は原則「DMATに所属しているか、救急救命センターに勤務している」以外、受講資格がありません。薬剤師が体系的に救急外傷を学ぶ場は、こちらも限りなく少く、機会が与えられていないのが現状です。

そして最後にもう一つ、薬剤師の技術を磨き、その腕を試す、確認するという場もありません。新人の時に先輩薬剤師に通り習った後は、ほぼ修正されることなく、教えられた通りの手順で調剤をこなすでしょう。例えば、散剤の計量に関して、正確性を重視するという名目で、スピードアップのための訓練、練習、フォームの改善などは全くされていないと思います。それを伝えようものなら、先の名目を突きつけ、とてもゆっくと正確に仕事をされる薬剤師も多いのではないのでしょうか。

それらを打開するために、薬剤師メディカルラリーとPERT (Pharmacist emergency response training) プロバイダーコースは生まれました。

薬剤師の腕試しの場、薬剤師メディカルラリーとは

メディカルラリーとは医療競技会のことで、主に救急関連のシナリオを題材にしたシミュレーション体験研修です。運営側は、いくつかのブースを構成・設置し、スタッフの演技や資器材を利用して、臨場感のある実際の現場を再現します。参加者はチームを組み、そのチームは主に医師・看護師・救急隊員などで構成されます。そしてその仮想医療現場での状況評価・観察・処置などの正確さ、迅速さなどを採点され、その総合得点を競い、楽しみながら学びが得られます。薬剤師メディカルラリーは、これを薬剤師版へとアレンジし、外傷の対応、調剤技術、接遇・応対、通報・避難、心肺蘇生、DI (医薬品情報提供) 業務などの薬剤師の心をくすぐるシナリオを用意して開催します。

薬剤師向け、救急を体系的に学ぶ、PERT (Pharmacist emergency response training) プロバイダーコース

PERTプロバイダーコースとは、薬剤師メディカルラリーの参加者アンケートから、体系的に緊急時の対応を学んでみたいという多くの声から生まれました。心肺蘇生術やAEDなど心停止患者への対応と、薬局の資器材などを使用しながらの救急外傷の対応の、救急隊や救命チーム等への引き継ぎまでを体系的に学ぶシミュレーション講習です。実はこの心肺蘇生術と外傷の処置の初動は全く異なります。それぞれを学ぶことで、街で市民に顔が見える位置で働く薬剤師が、緊急対応が必要な患者に怖がらず駆けつけることが出来るようになります。

それぞれ開催時に重要視しているのが、成人教育であること。そして、シミュレーション教育の場におけるインストラクターの教育手法を用いることです。この考えは多くのコースで採用されていると思いますが、参加者を尊敬しつつ、決して上から目線での対応にならないような、インストラクターの質を高い位置で保つ必要があると考えてコース設計しています。

開催

薬剤師メディカルラリーは2013年5月より年2回開催しており、PERTは2015年7月より開催し、基本的に月に1回開催しています。当初は東京だけで行っていましたが、福岡ではPERT、岡山では薬剤師メディカルラリーが開催されるなど、地方開催も少しずつ行われてきています。

その結果

参加者への効果

- 模擬ではあるが、臨場感のある現場を体験できるので、災害支援を体験していない方に実体験に近い経験を与えることができます。このことにより災害、救急、緊急の対応が他人事ではなくなるのと同時に、これらを実体験で予習復習する機会は減多に起こらないので、支援体験のある人でもこういった形での研修が、継続学習に有効です。
- 単に災害の調剤支援だけをとってみても、電気のない中での調剤などは、通常業務で扱うことは少なく、職場外の先輩方に技術を習う機会にもなっています。また患者対応だけでなく、基本的な救急の手技、共通語を学んだ上で、災害を学ぶ必要性を感じ取ることができるので、他職種との共通語も学びやすいです。
- 参加者は被災者の感情も、現地スタッフの感情も、その生活も、日常と異なり、配慮すべきこと全てが異なることを学ぶことができ、スタッフは被災者の役をするので、被災者側の疑似体験もできます。これにより、災害派遣や受け入れ、それ以外のいざという時の対応の一步も、理解がある上で踏み出しやすくなります。
- 現実味のある疑似体験をしているので、駅で倒れている等の、災害だけでなく現実の救助への一步も踏み出しやすくなり、それらに対する知識不足を解消するための、さらなる向学心も生まれます。

他職種との相互影響

それぞれ参加者は、薬剤師、薬学生、薬局勤務の医療事務で、スタッフは、医師、看護師、救急救命士、救急隊員、薬剤師、薬学生などです。特に他職種のスタッフ参加者が多い。薬剤師がどこまで行っているのかという興味と、薬剤が絡む症例を学びに来てくれているようです。

スタッフの質も高いことから、上から目線のスタッフはおらず、相互に学び合い、尊敬し合う場として存在しているようで、休憩時間、懇親会などの場で、連絡先の交換をした参加者の皆さんは、イベント終了後にも継続して情報交換をしているようです。

今後の展開

「日常に起こりうる、非日常」を体験する、薬剤師メディカルラリーを普及させ、「『非日常』がとてつもない規模で起こるのが災害」、その救急と災害のスイッチの切り替えを理解し行動できる薬剤師を増やしていきたいと思います。

そして、PERTプロバイダーコースで心肺蘇生術と緊急を要する外傷に対する処置を学ぶ薬剤師のためのコースも普及させて、地元の救急隊との共通語、申し送りの方法を学び、他職種連携を強化することで、救急にも災害にも強い薬剤師を増やしたいと思っています。

これらにより、薬剤師・薬局機能が強化され、街の救命率・社会復帰率の上昇に繋がるでしょう。一人一人の薬剤師の意識が変わるだけで、どれだけ街が心強いものになるのか楽しみです。



くすりの散歩道

NO.94

生活習慣にも科学的根拠を…

(一財)日本医薬情報センター 医薬文献情報担当
杉山 むつみ(Sugiyama Mutsumi)



年末年始の頃は暖冬といわれていましたが、1月初旬から雪が降り、寒い日々が続きましたね。皆さま、体調はいかがでしょう。

私は恥ずかしながら、年始の仕事の山を終えた頃に風邪をひきました。疲れもあったかとは思いますが、栄養の問題が大きかったのでしょうか。生活習慣の見直しが必要になりました。暖房をちゃんと使用し、睡眠をよくとり、野菜の摂取を増やす中で、夜のティータイムに新しく参加したのが生姜でした。紅茶、はちみつレモン、果てはホットミルクにまですりおろした生姜を入れました。私のオススメはすりおろしショウガとはちみつ、レモン汁を入れ、葛粉の代わりに片栗粉で溶いたしょうが葛湯もどきです。美味しく、身体の温まり方が良い上に、風邪の治りが早かった気がします。

生姜はショウキョウと読めば、漢方に用いられる生薬となります。ショウガの根茎を乾燥させたもので、6-、8-ギンゲロールと6-ショウガロール等を有効成分とし、中枢抑制、抗アレルギー、胃液分泌抑制作用、プロスタグランジン生合成阻害作用、腸管輸送能の亢進、抗炎症作用などが認められています。漢方医学的作用は「嗽を治し、中を温め、張満、霍乱の止まぬもの、腹痛、冷痢、血閉を治す」とされており、新陳代謝機能の改善を目標に嘔吐、せき、胸痛、腹痛、腰痛、下痢などに用います。葛根湯、小青竜湯、小半夏加茯苓湯などに含まれています。生姜自体は民間療法としても古くから用いられており、私が目的としたように、喉の痛みにしょうが湯が良いというのは良く知られていると思います。

しかし、健康成人としては食品としての生姜の方が関わる機会が多いのではないのでしょうか。日本の

食文化の代表であるお寿司の付け合せとして生姜を甘酢に漬けたガリがありますが、こちらは一般的に言われているお口直しや抗菌作用以外に、生魚による身体の冷えに対して身体を温める効果も期待されているそうです。さらに、西欧ではクリスマス時期には、ジンジャーブレッドを始めとした様々な香辛料を用いたお菓子が売られています。こちらにつきましては、寒い冬を家族が健康に過ごせるよう無病息災を願って、風邪予防に効く生姜を用いて作ったのが始まりと耳にしたことがあります。赤ワインに果物の果汁やシナモン、ジンジャーなどの香辛料を加えて温めたホットワインもクリスマスマーケットの人気者ですね。

東洋、西欧関係なく古くより生姜が食材として、また治療・予防薬として活用されてきたことがわかります。そんなことを考えていたら、薬膳料理というものに俄然興味が湧き、薬膳料理に用いる食材の解説本を買ってしまいました。生姜のように効果のよく知られている食材の他にもレタスやかぶなど効果があるなど考えたこともない食材も多数あり、目下、勉強中です。かつて母がしてくれたように、食べる人の健康を考えた食事を作れるようになりたいものです。

<参考図書>

山田陽城・花輪壽彦・金成俊『薬学生のための漢方医薬学』南江堂。
北川勲・金城順英・桑島博・三川潮・庄司順三・滝戸道夫ほか、『生薬学 改稿第7版』廣川書店。
橋口亮・橋口玲子、『今日からはじめる野菜薬膳 からだに役立つ食材きほん帖』マイナビ。

iyakuSearch講習について：広島国際大学薬学部で行いました

iyakuSearch講習はJAPIC会員の大学薬学部向けに行っている会員サービスです。

大学の講義時間（主に医薬品情報学）のお時間をお借りし、JAPICの提供する医薬品情報データベース「iyakuSearch：イヤクサーチ」の操作方法について、JAPICの職員が直接学生に説明いたします。学生には検索演習問題を実際にパソコンを操作しながら習得してもらいます。iyakuSearchは無料で検索できるDBですが、文献及び学会情報の付加情報など一部の情報はiyakuSearch Plusのサービスとして、有償となります。しかし、JAPIC会員はこのiyakuSearch Plusが追加料金なく利用できます。

講習の対象は3～4年生が一般的です。講習は1人で1台のパソコンを使用することが多く、人数が多い場合は一学年を2クラスに分けて、講習を2回行うこともあります。

去る平成28年1月21日には広島国際大学 薬学部において、医療薬学研究センター 佐々木順一准教授の医薬品情報の講義のお時間を頂戴して講習を行いました。今回は3年生を対象とし、1クラスあたり80名で2クラスに分かれての実施です。なお、広島国際大学 薬学部は平成18年からJAPICの会員となり、iyakuSearch講習は今回初めてとなりました。

通常、講習の内容は、最初にJAPICの簡単な紹介の後、iyakuSearchの概要説明を行い、操作方法の解説を行いながら、検索練習問題を解き、その後検索実習問題を行っていきます。現在iyakuSearchは11種のコンテンツがありますが、このうち、JAPIC Daily Mail DB及びRegulations Viewは製薬企業向けのサービス（有償）の利用者が対象となるため、大学の学生は残りの9種を利用できます。なお、iyakuSearch講習では時間の都合もあり、このうち医薬文献情報、学会演題情報、医療用医薬品添付文書情報、一般用医薬品添付文書情報の4種のコンテンツを取り上げて説明しております。

講習では基本的な操作方法を紹介し、and検索、or検索など検索結果の絞り込みに必要な操作を学んでもらいます。iyakuSearchは簡単な入力操作での検索を目指したDBであるため、パソコンが普及して久しく、近年はスマートフォンの操作に慣れた現代の学生にとって、操作方法はすぐに習得してしまい、操作方法に悩む学生はいずれの大学でもほとんど見かけません。一方、普段入力し慣れない医薬品名、副作用名などは、パソコンの文字変換が思うように変換してくれなかったり、慣れない用語のため誤読してしまったり（特に「バ」と「パ」）で、例題の検索とは異なる検索結果となってしまうなどの点で苦勞していました。例えば、誤読でよく見かける例に「低カルシウム血症」を「低カリウム血症」と入力してしまうことがあります。

今年度もいくつかの薬系大学で講習を行いました。いずれの大学でも学生は熱心に耳を傾けて講習を聞いています。広島国際大学でも学生は真剣な表情で講義を聞き、時折操作方法がわからない点があれば、学生どうして教え合いながら実習に取り組んでいました。

講習を通じてiyakuSearchを紹介しておりますが、学生向けのDBとして好評いただいている点がございます。特に、英語で記載されている文献、学会情報についても、抄録及びキーワードなどの付加情報が和文で記載されていることは、大学の先生から強調して紹介していただいております。英文の文献に不慣れな学生には、概要がすぐに把握できるので該当する論文を効率的に探すことが出来るとの事でした。

JAPIC会員の皆様にはiyakuSearchはPlusサービスも無料でご利用いただけます。教育機関に限らず、製薬企業の皆様にもiyakuSearchご利用機関向けにiyakuSearch講習を行っておりますので、ご興味のある方は是非お問合せ下さい。

❖ JAPICサービスの紹介 ❖

■ 院内採用医薬品集作成システムJAPIC PIA (ジャピック ピア)

院内医薬品集は病院機能評価の評価項目の一つに挙げられておりますが、院内医薬品集の作成及び維持管理には、医薬品情報（添付文書）の継続した反映作業等、決して少なくない手間が必要になります。

本システムをご利用いただきますと、院内医薬品集、採用薬一覧をMS Wordを利用して簡単に作成、修正することができます。また、医薬品情報を院内LANを利用して共有する機能等、医療機関における医薬品情報共有に役立つシステムとなっております。

《本システムの特長》

1. 医薬品集、採用薬一覧をWordで作成

JAPIC PIAで作成される医薬品集や院内採用薬一覧はすべてWordの簡単操作で作成できます。事前に登録した採用薬情報にレイアウト等を指定するだけで作成が可能です。

Wordを利用して作成することで、直接Word上で編集したり、他のパソコンにコピーしたり等、様々な形で活用できます。

また、商品属性、効能効果、用法用量を表にした簡易医薬品集の作成も可能です。



2. 目次（薬効別）、索引（商品名順・一般名順）の自動作成

本システムから作成した医薬品集の目次と索引も作成することが可能です。医薬品集をWord上で編集してページがずれても問題ありません。目次は通常「薬効分類順」に作成されますが、独自の分類項目を設定していただければオリジナルの目次（適応症などのキーワード指定による逆引き索引）を作ることも可能です。

医薬品集から目次、一般名五十音索引、商品名五十音索引の作成例



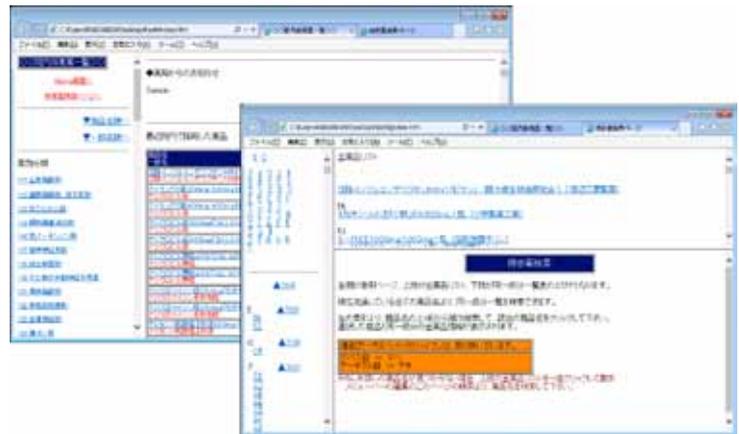
3.最新の添付文書をダウンロード(当センターiyakuSearchと直リンク)

日々更新される添付文書の改訂情報、新規医薬品の添付文書情報をインターネットよりダウンロードし、院内採用医薬品をアップデートすることができます。

4.院内LAN上での採用薬添付文書情報の閲覧・持参薬から同一成分薬の検索

院内採用医薬品データをHTML形式で作成できます。これにより添付文書を院内LANで閲覧することが可能です。

また、webページ作成にあたり、専用サーバーや専用データベースは必要ありません。月に一度JAPIC PIAで更新した情報を差し替える作業のみで最新の添付文書が閲覧可能です。



5.Excel、CSVデータへの出力可能

院内採用薬データを指定の条件と指定の項目で抽出し、ExcelワークシートやCSVデータへ出力できますので、院内資料等にご活用いただけます。

6.同一成分薬の院外薬一覧の作成(採用品同種同効薬(類似薬)も表示)

院内採用薬と同一成分の院外薬一覧等の各種資料を作成できます。医薬品集の別紙資料としてご活用いただけます。

7.後発品に対応する先発品の設定、表示

8.医薬品集配布後に改訂分、追加分の冊子作成

9.YJコード、JANコード、GTINコードから採用薬データの作成が可能

YJコード、JANコード、GTINコードから一括登録が可能です。

10.添付文書情報以外の独自情報も追加編集可能

院内独自項目の追加が可能です。

11.後発品(ジェネリック医薬品)の管理が可能

後発品マーク表示が、医薬品集、採用薬一覧、webページ等、全ての出力に表示されます。

12.持参薬から同一成分医薬品の検索が可能

現在流通している、すべての医薬品(持参薬)から同一成分薬の検索が可能です。また、院内採用薬の同種同効薬も表示されます。

通信環境	院内LANによる常時接続
必要なシステム	OS: Windows Vista / 7 / 8 / 8.1、Word 2007 / 2010 / 2013 画面解像度:1024×768以上
ダウンロードサービス	サーバ接続での添付文書データの配信
初年度利用料金	200,000円(税抜)
2年目以降利用料金	30,000円/年(税抜) [サーバー利用料金・データ利用料金]

☆30日間無料お試し版CD-ROMを提供していますので、実際に医薬品集や様々な帳票の出力をお試し後、導入を検討していただけます。(http://www.japic.or.jp/service/cd/japicpia.html)

【お問合せ・資料請求】

事務局 業務・渉外担当 TEL: 0120-181-276 Email:gyoumu@japic.or.jp

❖ JAPICサービスの紹介 ❖

JAPIC Daily Mail (JDM) サービス

一医薬品・医療機器等の安全性に関する海外及び国内の規制措置情報を提供

JAPIC Daily Mail (JDM) サービスとは・・・

医薬品の市販後調査の基準に関する省令〔医薬品GPMSP（現GVP/GPSP）〕の一部改正に伴う外国措置情報の収集等の業務支援を目的として、平成13年5月より製薬企業会員を対象に開始したサービスです。

◇外国の最新の安全性措置情報を提供

医薬品・医療機器の製造、販売等の中止、表示改訂（「BOXED WARNING」、「CONTRAINICATION」、重要な使用上の注意の改訂等）、回収情報等、安全性に関する措置の情報を選択し、日本語概要、該当原文のURLをつけて、毎日（JAPIC営業日）電子メールで提供します。

◇情報収集は8カ国2機関約90サイトから

米国FDA、EU/European Medicines Agency、英国MHRA等、8カ国2機関（米、英、独、仏、豪、カナダ、スウェーデン、ニュージーランド、EU、WHO）及び日本の規制当局等のホームページ約90サイトを毎日（JAPIC営業日）チェックしております。

◇「プレ送信」と「本送信」の2種類のメールを提供

「プレ送信」は午前中に、当日提供予定の外国の措置情報を、日本語概要を加えずに原文のまま送信し、迅速な情報提供を求めるユーザー様のご希望にお応えしています。

「本送信」は午後には、日本語概要を加えて送信します。

<プレ送信>



<本送信>



特長

◇主に外国における安全性措置情報の収集に役立ちます。

外国における医薬品・医療機器等の安全性に関する措置情報の迅速な入手及び関連医薬品・医療機器等の対応ツールとして高い評価をいただいております。また、外国だけでなく国内の措置情報の収集にも役立ちます。

◇措置情報の収集労力と費用の節減になります。

◇情報収集のためのサイトは随時見直し・追加をしています。

◇データベースiyakuSearch PlusのJAPIC Daily Mail (JDM) DBから、2004年以降の記事の検索なども可能です。

◇無料トライアルを行っております。

JAPIC Daily Mail Extra (JDMエクストラ) サービス

—JDMの内容から個別の医薬品・医療機器に関する情報を選択提供

JAPIC Daily Mail Extra (JDMエクストラ) サービスとは・・・

JDMの内容からご登録いただいた医薬品・医療機器についての情報を選択して個別に提供するサービスです。平成21年度より開始しました。

◇ご登録いただいた医薬品・医療機器に関する情報をメールで提供

JDMサービスご利用ユーザー様を対象とし、JDMで提供した内容から、ご登録いただいた医薬品・医療機器に関する情報を検索し、検索結果及び該当記事をメールにて提供します。

◇該当原文中の医薬品名・医療機器名についても検索でき、より網羅的な情報収集が可能（ただし、該当原文がテキスト認識できる場合に限る）

特長

◇毎日のJDMの確認における見落とし防止として、補完的にご利用ください。

◇マイページにて医薬品名・医療機器名（キーワード）をご登録いただけます。

このサービスをご利用いただくユーザー様には、Web上の専用マイページにて、ご自身で医薬品名・医療機器名をご登録いただけます。

◇検索履歴や登録された医薬品・医療機器をマイページで管理できます。

検索結果及び該当記事は、メール（エクストラメール）での個別提供に加え、マイページにおいても確認することができます。



JAPIC Daily Mail Plus (JDM Plus) サービス

—生物由来製品に関する感染症情報を提供

JAPIC Daily Mail Plus (JDM Plus) サービスとは・・・

国内外の有用なWebサイトを調査し、生物由来製品の由来となる生物、原材料、原料又は材料から人に感染すると認められる疾病に関する情報（新規感染症、既知感染症の発生頻度の増加、新規感染経路、生物由来製品による感染症の発生等）を電子メール（Excelファイル）により原則として週1回、月曜日に提供するサービスです。

◇日本語の概要に該当原文へのリンク、キーワード（感染症、動物種）を加えて提供

◇情報収集は各機関の約50サイトから

WHO、OIE、EU、各国機関（米、英、カナダ、独、仏、豪、スウェーデン、日本など）の約50サイトをチェックしています。

外国政府等の医薬品・医療機器等の 安全性に関する規制措置情報より – (抜粋)

2016年1月1日～1月31日分のJAPIC WEEKLY NEWS (No.534-537)の記事から抜粋

■米FDA

- bioMerieuxの体外診断用Etest PIP/TAZO/CON-4 PTC 256のClass Iリコーラー誤った検査結果が生じる可能性により
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm479208.htm>>
- Olympus製造の十二指腸検査用内視鏡、モデルJF-Q180V: FDA Safety Communication—新しい再処理の使用説明書が有効
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm440098.htm>>
- 米FDA、医療機器製造業者に対するサイバーセキュリティ勧告の概略を示す
<<http://www.fda.gov/NewsEvents/Newsroom/PressAnnouncements/ucm481968.htm>>
- St. Jude MedicalのOptisure Dual Coil除細動器用リードのClass Iリコーラー損傷により患者治療が妨げられる可能性
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm483141.htm>>

■Health Canada

- Summary Safety Review: 経口fluoroquinolones—網膜剥離の潜在的リスクに関する評価
<<http://www.hc-sc.gc.ca/dhp-mps/medeff/reviews-examens/fluoroquinolones-eng.php>>
- CellCept (mycophenolate mofetil) およびMYFORTIC (mycophenolate sodium) —mycophenolate含有製剤における重篤な催奇形性リスク
<<http://healthycanadians.gc.ca/recall-alert-rappel-avis/hc-sc/2016/56690a-eng.php>>
- TARCEVA (erlotinib)—患者に対する維持療法使用
<<http://healthycanadians.gc.ca/recall-alert-rappel-avis/hc-sc/2016/56720a-eng.php>>
- Summary Safety Review: GALEXOS (simeprevir)—重度の肝障害の潜在的リスクに関する評価
<<http://www.hc-sc.gc.ca/dhp-mps/medeff/reviews-examens/galexos-eng.php>>

■英MHRA

- nicorandil (Ikorel) : 現在はアンギナの第二選択治療薬—潰瘍合併症のリスク
<<https://www.gov.uk/drug-safety-update/nicorandil-ikorel-now-second-line-treatment-for-angina-risk-of-ulcer-complications>>
- 子宮内levonorgestrel放出システム: ブランド名による処方について
<<http://www.gov.uk/drug-safety-update/levonorgestrel-releasing-intrauterine-systems-prescribe-by-brand-name>>

■独BfArM

- Protopic (tacrolimus) —眼部の単純ヘルペス感染
<<http://www.bfarm.de/SharedDocs/Risikoinformationen/Pharmakovigilanz/DE/RI/2016/RI-protopic.html>>

■仏ANSM

- Exviera (dasabuvir) 併用または非併用時におけるViekirax: 中等度の肝障害 (Child-Pugh B) を有する患者には推奨されない; 医療専門家向けレター
<<http://www.ansm.sante.fr/S-informer/Informations-de-securite-Lettres-aux-professionnels-de-sante/Viekirax-avec-ou-sans-Exviera-traitement-non-recommande-chez-les-patients-presentant-une-insuffisance-hepatique-moderee-stade-Child-Pugh-B-Lettre-aux-professionnels-de-sante>>
- 6例の入院 (脳死を含む) に至った重篤な有害事象の発生により、BIALの臨床試験が早期終了となった
<<http://www.ansm.sante.fr/S-informer/Actualite/La-survenue-d-effets-graves-ayant-entraine-l-hospitalisation-de-6-patients-dont-un-en-etat-de-mort-cerebrale-a-conduit-a-l-arret-premature-d-un-essai-clinique-du-laboratoire-BIAL-Point-d-information>>
- Gilenya (fingolimod) : 免疫系への作用に関するリスク; 医療専門家向けレター
<<http://www.ansm.sante.fr/S-informer/Informations-de-securite-Lettres-aux-professionnels-de-sante/Fingolimod-Gilenya-R-Risques-lies-aux-effets-sur-le-systeme-immunitaire-Lettre-aux-professionnels-de-sante>>
- 経口risperidone (Risperdalおよびジェネリック) : 小児への使用における承認された適応および条件; 医療専門家向けレター
<<http://www.ansm.sante.fr/S-informer/Informations-de-securite-Lettres-aux-professionnels-de-sante/Risperidone-par-voie-orale-RISPERDAL-R-et-generiques-Rappel-des-indications-approuvees-et-des-conditions-d-utilisation-en-pediatrie-Lettre-aux-professionnels-de-sante>>

JAPIC事業部門 医薬文献情報 (海外) 担当

記事詳細およびその他の記事については、JAPIC Daily Mail (有料) もしくはJAPIC WEEKLY NEWS (無料) のサービスをご利用ください (JAPICホームページのサービス紹介: <<http://www.japic.or.jp/service/>> 参照)。JAPIC WEEKLY NEWSサービス提供を御希望の医療機関・大学の方は、事務局業務・渉外担当 (TEL 0120-181-276) までご連絡ください。

【新着資料案内 平成28年1月1日～1月31日受け入れ】

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。この情報は附属図書館の蔵書検索 (<http://www.japic.or.jp/iyaku/index.html>) の図書新着案内でもご覧頂けます。これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。閲覧をご希望の場合は、JAPIC附属図書館 (TEL 03-5466-1827) までお越し下さい。

〈配列は洋書、和書別に書名のアルファベット順、五十音順〉

書名	著編者	出版者	出版年月
AHFS Drug Information 2016	American Society of Health-System Pharmacists	American Society of Health-System Pharmacists	2016年
Drug Facts and Comparisons 2016	Facts & Comparisons	Facts and Comparisons	2015年10月
European Pharmacopoeia 8th edition Supplement 8.8	Council of Europe	Council of Europe	2016年1月
MIMS New Ethicals JAN-JUN 2016 Issue 24	Valerie Hoa, et al.	MIMS (NZ) Ltd.	2016年
革新的医薬品審査のポイント	成川 衛 編著	日経BP社	2015年12月
肝がん白書 平成27年度	一般社団法人日本肝臓学会	一般社団法人日本肝臓学会	2015年7月
高血圧治療で極める脳卒中克服の医師力 脱・脳卒中の極意	長谷部直幸 編	フジメディカル出版	2016年1月
今日の治療指針 2016年版 (Volume 58) : 私はこう治療している	山口 徹、北原光夫 監修	医学書院	2016年1月
今日の治療薬 2016 解説と便覧	浦部晶夫、島田和幸、川合眞一 編	南江堂	2016年1月
最新マイコプラズマ学	日本マイコプラズマ学会 編	近代出版	2016年1月
人獣共通感染症 改訂3版	木村 哲、喜田 宏 編	医薬ジャーナル社	2016年2月
治療薬ハンドブック2016 薬剤選択と処方のポイント	堀 正二 他編	じほう	2016年1月
治療薬マニュアル 2016	北原光夫、上原文昭、越前宏俊 編	医学書院	2016年1月
日本の新薬-新薬承認審査報告書集-第65巻	一般財団法人日本医薬情報センター	一般財団法人日本医薬情報センター	2015年12月
日本の新薬-新薬承認審査報告書集-第66巻	一般財団法人日本医薬情報センター	一般財団法人日本医薬情報センター	2015年12月
日本の新薬-新薬承認審査報告書集-第67巻	一般財団法人日本医薬情報センター	一般財団法人日本医薬情報センター	2015年12月
日本の新薬-新薬承認審査報告書集-第68巻	一般財団法人日本医薬情報センター	一般財団法人日本医薬情報センター	2015年12月
日本の新薬-新薬承認審査報告書集-第69巻	一般財団法人日本医薬情報センター	一般財団法人日本医薬情報センター	2015年12月
日本の新薬-新薬承認審査報告書集-第70巻	一般財団法人日本医薬情報センター	一般財団法人日本医薬情報センター	2015年12月
日本の新薬-新薬承認審査報告書集-第71巻	一般財団法人日本医薬情報センター	一般財団法人日本医薬情報センター	2015年12月
日本の新薬-新薬承認審査報告書集-第72巻	一般財団法人日本医薬情報センター	一般財団法人日本医薬情報センター	2015年12月
日本の新薬-新薬承認審査報告書集-第73巻	一般財団法人日本医薬情報センター	一般財団法人日本医薬情報センター	2015年12月

情報提供一覧

【平成28年2月1日～2月29日提供】

出版物がお手許に届いていない場合、宛先変更の場合は当センター事務局 業務・渉外担当 (TEL 03-5466-1812) までお知らせ下さい。

情報提供一覧	発行日等	JAPIC作成の医薬品情報データベース	更新日
〈出版物・CD-ROM等〉		〈iyakuSearch〉 Free	http://database.japic.or.jp/
1. [JAPIC Pharma Report-海外医薬情報]	2月5日	1. 医薬文献情報	月 1 回
2. [添付文書入手一覧] 2016年1月分 (HP定期更新情報掲載)	2月1日	2. 学会演題情報	月 1 回
3. [一般用医薬品 (経済課コード)] 2016年1月分 (HP定期更新情報掲載)	2月1日	3. 医療用医薬品添付文書情報	毎 週
4. [JAPIC NEWS] No.383 3月号	2月26日	4. 一般用医薬品添付文書情報	月 1 回
〈医薬品安全性情報・感染症情報・速報サービス等〉 (FAX、郵送、電子メール等で提供)		5. 臨床試験情報	随 時
1. [JAPIC Pharma Report海外医薬情報速報] No.1018-1021 (旧: 医薬関連情報速報FAXサービス)	毎 週	6. 日本の新薬	随 時
2. [医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC-Qサービス)]	毎 週	7. 学会開催情報	月 2 回
3. [JAPIC-Q Plusサービス]	毎月第一水曜日	8. 医薬品類似名称検索	随 時
4. [外国政府等の医薬品・医療用具の安全性に関する措置情報サービス (JAPIC Daily Mail)] No.3577-3596	毎 日	9. 効能効果の対応標準病名	月 1 回
5. [JAPIC Weekly News] No.537-540	毎週木曜日	〈iyakuSearchPlus〉	http://database.japic.or.jp/nw/index
6. [Regulations View Web版] No.328-329	2月12日・26日	1. 医薬文献情報プラス	月 1 回
7. [感染症情報 (JAPIC Daily Mail Plus)] No.627-631	毎週月曜日	2. 学会演題情報プラス	月 1 回
8. [PubMed代行検索サービス]	毎月第一・三水曜日	3. JAPIC Daily Mail DB	毎 日
9. [JAPIC医療用医薬品集2016] 更新情報2016年2月版	2月29日	4. Regulations View DB (要:ID/PW)	月 2 回
		外部機関から提供しているJAPICデータベース	
		〈JIP e-infoStreamから提供〉	https://e-infostream.com/
		〈株式会社ジー・サーチJDreamⅢから提供〉	http://jdream3.com/
		〈株式会社日本経済新聞社から提供〉	http://telecom.nikkei.co.jp/

医療用医薬品集

普及新版2016

2016年
3月発行



本書は「JAPIC医療用医薬品集(B5判 約4,000頁)」をもとに臨床の場で利用される際に必要な項目を選択し、取り扱いやすく、持ち運びに便利なちょっと大きめのポケットサイズ(A5判)に再構成したものです。成分ごとに添付文書記載の効能・効果、用法・用量、禁忌、警告、使用上の注意等、及び半減期情報等を記載。

約2,200成分、約21,000製品の医療用医薬品情報を2016年1月時点の最新情報で収録。

■掲載内容

- ◎一般名、製品名
- ◎承認日(一部製品)
- ◎組成(規格)
- ◎効能・効果、用法・用量
- ◎警告
- ◎禁忌、原則禁忌
- ◎慎重投与
- ◎重要な基本的注意
- ◎相互作用(併用禁忌・併用注意)
- ◎副作用
- ◎高齢者への投与
- ◎妊婦・産婦・授乳婦等への投与
- ◎小児への投与
- ◎臨床検査結果に及ぼす影響
- ◎半減期

価格：**4,800**円(+税)

A5判/約1,800頁

一般財団法人 日本医薬情報センター **JAPIC** 編集・発行 TEL 0120-181-276
丸善出版株式会社 発売 TEL 03-3512-3256

上記書籍の他、電子カルテやオーダーリングシステムに搭載可能なJAPIC添付文書関連データベース(添付文書データ及び病名データ)の販売も行っております。データの購入希望もしくはお問い合わせはJAPIC (TEL 0120-181-276) まで。

Garden

ガーデン

このコーナーは薬用植物や身近な植物についてのヒトクチメモです。リフレッシュにどうぞ!!

すぎ

杉科杉属杉。日本の代表的な樹木。字のつくりはサンと発音する。髪や彩色をあらわす、美しいという意味をもつ。漢字にも杉はあるようだが、日本の杉とは異なるだろう。直木(すぎ、すぐなる木)であり神木であり、寺社に多く植えられる。花粉症の原因だとして杉を悪ものにする崇りがある。杉並木は各地に見られるが、杉並区も江戸時代に領地の境界として青梅街道に植えられていたことに由来するという。(ks)



JAPICホームページより
<http://www.japic.or.jp/>

HOME

サービスの紹介

ガーデン

Topページ右下部の「アイコン」からも閲覧できます。